

業務用向け多収性品種の収量・品質を確保！
早生は高温登熟。刈遅れに注意！適正な乾燥・調製を！

ここがポイント！！

- 1 出穂期と積算気温をもとに、早めに作業計画を立てる
- 2 黄化粃割合から収穫適期を判断し、直ちに刈り取る
- 3 1.85mmのふるい目の使用を基本に、適正な調製を行う

1 品種ごとの出穂期と収穫適期のめやす（高温年のめやす）

品種名	移植期	出穂期	収穫適期の積算気温 (出穂期後の日平均気温 の積算値)	収穫適期のめやす (積算気温到達日) ※
つきあかり	5月 上旬	7/24	950～1,050 °C	8/28～9/1
ゆきん子舞	5月 上旬	7/24	925～ 975 °C	8/27～29
あきだわら	5月 中旬	8/15	1,050～1,100 °C	9/30～10/2

※ 8月18日までは新津アメダスの日平均気温の本年値、それ以降は平年値を用いて計算

2 収穫・乾燥・調製について

(1) 収穫時期について

- ・ 出穂期以降の高温で早生品種は高温登熟となっている。今後も気温は高い予報となっており、収穫時期は例年に比べ早まる見込み。
- ・ 出穂期からの積算気温を参考に早めに作業計画を立てる。
- ・ 実際の収穫適期は黄化粃割合が85～90%になった頃である。高温登熟年では胴割粒や基部未熟粒が発生しやすいため、上記黄化粃割合になったら直ちに収穫し、刈遅れないよう注意する。

(2) 乾燥・調製について

- ・ 乾燥時の通風温度は通常と同じであるが、胴割粒発生防止に留意し、粃水分に合った適切な温度で乾燥する。
- ・ 選別はふるい目1.85mmの使用を基本とする。未熟粒や被害粒が多い場合は必要に応じて1.9mmのふるい目や色彩選別機を利用する。